



青森市町会連合会事務局発行
61. 7 (月刊)
第 130 合併号
133
TEL 34-2584
編集事務局

会長からのあいさつ並びに事務職員紹介

昭和六十一年度の定時総会も町会長各位のご配慮によって、予定どおり終了することの出来ましたことを感謝いたしております。

また、各位の理解あるご協力によりまして全役員も再任ということになり、更にその責務の大なる事を痛感いたしております。

今後は、なお、一層各位のご支援助とご協力をいただきながら頑張るつもりでありますのでよろしくお願いいたします。

なお、五月に当事務職員にも異動などがあり、つい事務局だけがおくれ誠に申し訳ないと思っております。

本間元元事務局長は、健康上の理由で村上富子職員も家庭の都合上の理由で、それぞれ五月末日で退任いたしました。その後任として古川早稲氏は事務局長として(五月三十日付)、工藤美佳子さんは職員として(五月一日付)それぞれ就任いたしました。古川事務局長は久須志町、大正十三年生まれ、昭和五十八年三月県庁退職、(前)青森県出稼協会勤務、六十一年三月契約満了退職、工藤さんは橋本町、昭和三十七年生まれ、昭和五十九年東北女子大学中退。本年より事務局の構成も三人で執務することになったので、事務処理なども円滑に出来得るものと思っております。どうか各位の暖かいご指導とご協力をお願いいたします。

昭和六十一年定時総会盛會裡に終わる

町会連合会の定時総会は、四月二十六日午後一時から市文化会館(5F)大会議室において三百四十七町会から二百九十六町会長が出席開催された。

来賓に工藤青森市長(代理)、里村市議会議長、北山青森警察署長、西名東北電力青森営業所長らを迎え祝辞と激励のことばをいただき、町会活動の功労者として次の方々に表彰状並びに感謝状を贈呈した。

町会長勲功二十年以上山口健次郎氏(小柳)ら十二人、勲功十年小笠原徳幸氏(平新田)ら十四人、五年連続佐藤美善氏(八幡林)ら十九人、優良町会員野内松風クラブ(野内)ら一八四人、町内会交通安全事故防止コンクール表彰団体新奥野第一町会ほか九町会、環境美化受賞団体大別内町会ほか十町会、就任二十年以上の退任町会長山内太七郎氏(東昭和町)ら六人、受賞者を代表して工藤六三郎氏から謝辞があった。

総会は、議長に新奥野第一町会長葛西治夫氏を選出、議事に入り六十年年度庶務、事業報告、収支決算報告、六十一年度事業計画(案)、一般会計予算(案)、分担金値上げ案等の議案は慎重に審議され、役員任期満了に伴う役員改選については、全員留任されるなど全議案異議なく可決され承認された。

町連合会役員市議会傍聴

昭和六十一年第二回定例市議会開会中の五月三十日午後から岩谷会長始め役員三十三名が市議会を傍聴した。

「市議会傍聴所感」午後の会議が定刻に再会し、議員の出席数を知らせる文字盤が、四十二名を示し、なかなかよい出席率と感心した。ところが三十分が経過すると、文字盤の数字は次第に減少し、開会から一時間二十分位すると三十名になった。議員が常日頃、公私とも多忙なことは十分承知しているが、せめて議案の審議中は、議場から姿を消さないで欲しいと思った。(市議会だよりから再録)

○ 議員 市では町会に対し、街灯補助費を交付しているが、町会にとつて街灯、防犯灯の維持は最大の悩みで、町会費に占める街灯費の割合は大きく、また古くなった電気器具の補償にも多額の経費を要する。そこで市はこの補修等に対する補助を検討する考えはないか。
○ 市側答弁 市は各町会に対し、一灯当たり年間二千五百十四円の基準で総額五千八百万円の予算を計上しており、東北の他都市と比較しても決して低い額ではない。また、街灯の増設に伴う補助金総額の増大でもあり、現行額の引き上げや補助対象の拡大は困難と考えている。

新任町会長の研修会開催

各町会の総会で新しく選任された町会長は、昨年同様四十八名で町会員の信望を受けての就任で、それぞれ新たな抱負と「明るく住みよいまちづくり」のために重大な決意で運営に当たっておられると思うが、町

内会の本質、組織、機能など町会長として知っておくべき事柄を習得のため六月十一日午後一時三十分から東北電力青森営業所(3F)大会議室に新任町会長三十五人が出席し研修会を開催した。町会連合会各部長は昭和六十一年度事業計画等の担当部門について詳しく説明し、また市総務課から鈴木地域振興係長が出席。「コミュニティ」推進事業補助交付申請について説明。新任町会長からは「町内の街灯の灯数の確認」町会費の基準「幹線品」「私有宅地問題」「ゴミの収集について何日はどの町会なのかはっきりしない」「コミュニティについて毎年継続するものか、用紙はどこで配付するのか」等々質問があり、これからの町会運営に強い意欲を示し有意義な研修会であったと思う。

市の関係部長と語る会

六月二十五日、市議会第四委員会室で市の関係部長と語る会を開催。

町会連合会から市側に提言と要望などが出されなごやかに話し合われた。

○ 出席者 市 側 上野総務、泉生活環境、伊藤都市開発、篠崎福祉、松橋下水道各部長。坪生活環境部理事、西谷教育、米谷建設部、成田交通部各次長、熊谷総務課補佐、鈴木地域振興係長。

町会連合会側 岩谷会長、宮城、須々田、須藤、能登各副会長。石戸谷環境衛生部副部長、古川事務局長。

(話題) ○ 町会連合会側 市側

○ 総務部(宮城部長)

- 一、コミュニティ関係の町会連合会への委譲について
- 二、三、四、三道路の小柳小学校北側へ通ずる道路の完成はいつ頃か
- 三、市役所前のバス停留所の位置変更について
- 四、根子堰支流を流雪溝としての利用について
- 五、住居表示作業に対する行政の対応について
- 六、「市長と語る市民の集い」今後も継続していただきたい

一 コミュニティづくり推進事業は、五十七年度から実施四年になる。補助金問題は先般の議会でも討議された。事務委託については今しばらく検討させてほしい。

二 小柳の道路は、合浦と戸山を結ぶ線、真中に私有地二筆あり若干問題がある。六十三年には完成する。

三 バス停について一時移転した時期があった。現在のところ前にも後にもやり場がない。

四 根子堰は支流の終点で水の流れて行くところがない。一日六万トンの水がないと流雪できない。勾配が少なく現段階で全体計画はない。全体計画での実施はむずかしい。

五 住居表示は六十三年十一月一日目標にしている。基本的には地名を踏襲していきたい。

六 「市長と語る市民の集い」は今年六月十日で全部消化した。六十二年以降も引き続き実施する考えである。

○ 建設部(須藤部長)

一、公衆街路灯の修理費に対する助成方について

二、除排雪対策の一環として、流雪溝の設置を本格的に検討して見る時期ではないか。

一 一年街路灯は増設している。街路灯修理費助成の必要性は理解出来る。将来に向けて努力したい。

二 恒久的な対策が必要と思う。本格的な流雪溝については水源の流用、地形の問題、末端での処理、小路の整備、膨大な経費が必要。青森の場合勾配がないなど難しい。

○ 福祉部(能登部長)

一、会費制結婚式には、市長の祝電及び記念品(表札)などの配慮を願いたい。

二、市長の献花を予旗に替えられたい。

一 生活改善の合理化に伴い市長の祝電を送っている。

二 財政の問題もさることながら今後の課題としたい。冠婚葬祭の合理化について市内の有識者の意見を聞いたが、結婚は一生の問題であるとの声が多い。

○ 環境衛生部(石戸谷副部長)

一、市のゴミ収集業者の委託問題について。

二、一般市民のゴミ収集時間は、一律午前八時三十分となっているが見直して可ないか。

三、冬期間のゴミ収集場所の移動について。

一 民間委託でゴミ収集を実施した場合はコストが安い。効率的行政の運営を図るためにも是非導入すべき問題と考えている。

二 過去に午前と午後にかけて収集した時期もあった。共稼ぎが非常

に多くなっている。市民の声を聞くなどもう少し調査したい。

・三 夏場は入れる道路でも、冬期間は入れない場所もある。町会の要望に応ずるためにも収集場所を調査のうえ対応したい。

交通安全本部会（須々田部長）

一、地区交通安全パレードに、市の幹部が参加して住民を激励してもらいたい。

二、冬期間、バス停留所の除排雪に万全を期せられたい。

一 パレード参加は出きるだけ努力したい。市長を参加するようにしたいが調整が出きない場合は、部長が参加するようにしたい。

二 バス停留所は市内に千三百箇所ある。毎朝パトロールし作業しているが人手が少ない。町会の方で知らせてくれれば出きるだけ排雪するようにする。

市町連・市老連理事の合同研修会

市町連、市老連理事の施設見学会合同研修会には岩谷会長始め三十六人参加。六月二十七日午前九時市営バスで第一の目的地青森県観光物産館アスパムに向かう。アスパムでは十三階展望ラウンジに昇り太陽に輝く青森の街を眼下に見、八甲田の山山、陸奥湾の遠くにかすむ下北など展望し、青森駅ビル、ラビナを一巡。総合福祉センターで昼食を取りながらカラオケなど楽しみ、午後は有料道路青森中央大橋を經由、県営スケート場を見学、この施設は積雪寒冷地帯における生活環境の改善を図り、広く県民の心身の健全な発達に資するため、冬季間におけるスポーツとレクリエーションの中核施設として建設されたものであるという。

最後は八重田浄化センター（終末処理場）に至り、担当者から下水道に流した汚水と雨水は下水管を通り浄化センターに流れ着く過程について説明を受け、八重田地区のアメニティー下水道（流雪溝）を見学。十五時三十分無事解散した。爽りある一日であった。

東北電力主催の視察研修会

東北電力グループのサービスクンパニイの一環として実施された視察研修会には岩谷会長始め役員四十人が参加。七月十八日午前九時東北電力青森営業所前を弘南観光バスで出発、青森県観光物産館アスパムに直行。エネルギー館見学。「自然が人間の英知」のかかわりに目を向けながら、私達の暮らしに欠かせないエネルギーについてより深く知っていただくことを願って開設した。と担当者の説明を受け、太陽の光を集めて一年中みずみずしい緑の植物を育てている「ふれあい広場（グリーンフォーラム）」を中心に、人間のエネルギー開発の歴史や、電気エネルギーに関する最新技術など展示された展示ゾーンなど案内嬢の説明を聞きながらエネルギー館内を一巡。十時、六ヶ所村原燃PRセンターに向かう。六ヶ所村PRセンターは昭和六十年十月二十六日に開館し、今年五月十一日には入館者一万人を突破したという。六ヶ所原燃PRセンターは、六ヶ所村に建設する原子燃料三施設（ウラン濃縮、使用済み燃料再処理、低レベル放射性廃棄物貯蔵）の役割、しくみなどをより多く知ってもらうために開設された。第一次オイルショックから十年、あの日の驚きも、喉元すぎれば熱さ忘れ”で色あせている。しかし、現在でも、いや、我が国が資源小国であることには変わりがない。石油代替えエネルギーの柱として原子力開発を進めてきた結果、現在までに四分の一の電気が、原子力の灯”でまかなわれている。この原子力発電に使うウラン燃料を有効に再利用するシステム（これを原子燃料サイクルという）を確立することが緊急の課題であるという。PRセンター内にある原燃タワーは、地上十メートルの展望室で四方を見回すと原燃建設地点は勿論太平洋更には八甲田山までも一望できる。

漁火浮かぶ黒潮と寒立馬が走り松の緑が、美しい東通村、いまや人と人との強い絆できり拓かれ、原子のともしびを待っている。東通原子力準備事務所（東通村白樺）PR展示室で担当者の説明を聞く。PR展示室は、東通原子力発電所建設計画、生活とエネルギー、原子力発電のしくみ、原子力発電の安全性、原子力発電所と環境などを二十一世紀になく暮らしのエネルギー、原子力の世界をパネルで紹介している。

十五時過ぎ東通村をあとに帰路につく。野辺地を過ぎる頃から雨となり強い雨足をバスの窓辺に聞く。途中下車された役員の方は濡れながらの家路となったことと思う。十七時二十分東北電力青森営業所前に無事到着解散した。今日一日有意義な視察研修会であった。

東北電力青森営業所の皆さんに感謝いたします。

交通事故防止市民総決起大会並びにパレード

七百人が総決起大会に参加
パレードで市民に訴える

夏の交通安全運動中の七月二十一日午後一時三十分、本町公園（旧寺町児童公園）で交通事故防止市民総決起大会が開催され、各町会、老人

クラブなどの市民団体七百人が参加。交通事故撲滅を誓った。

大会では町会連合会須々田副会長の開会のことばに続き岩谷実行委員長が「交通事故の激増に対処し、市民一人ひとりが悲惨な交通事故を防止するため交通安全意識の高揚を図りませう。」とあいさつ。工藤青森市長、北山青森警察署長の激励のことばのあと、子供を代表して久栗坂小学校六年熊谷崇君と、運転者を代表して根本清美さんが決意を表明、青森交通安全協会の石田会長が「決意を新たに事故防止に努め、明るく豊かな住みよい社会づくりをまい進します。」と力強く大会宣言した。この後、県警のカラーガード隊を先頭に本町公園―寺町―新町通りの繁華街をパレード。ヘルメットやシートベルトの着用、飲酒、暴走運転の追放などを市民に訴えながら行進し夜店通りで解散した。

地区連合町会の交通安全パレード

- 六月 十五日 東部第八区パレード（代表 大塚英五郎）
- 七月 十三日 南部第一区パレード（代表 阿保 健蔵）
- 十八日 南部第八区パレード（代表 和田 敏光）
- 二十一日 西部第三区第六区パレード（代表 太田 松雄）
- 二十七日 南部第三区パレード（代表 須々田源之助）

街路灯電気料補助金

明るい街づくりを目ざして年々街路灯はふえ、灯具も自熱灯から蛍光灯に切り替えられている。補助金は市から年四回に分けて交付を受け、それに基づいて各町会に配分される。六十一年度第一回は六月九日から六月二十日までの間に、交付金額から当連合会への分担金を差し引き交付し、第二回は七月十四日から七月二十三日までに、地区別に交付しました。補助金の補助対象となる灯数は、前年の十二月末日における東北電力の支払料金の灯数で、広告灯、商業灯などは補助対象外です。

- 補助対象町会数 三百四十一町
- 補助灯数 二万、九〇四灯（四百五十三灯増、六十年比）
- 電気料金総額 八千五百九十九万五千六百六十四円
- 補助金総額 五千八百二十九万三千六百九十九円（平均補助率七十一、四％）

補助対象外町会 梨ノ木、田代平、大谷、藤戸、下新町、パークハイツ安方の六町会。

街路灯補助金をまだ受領していない町会は、町会長の私印を持参のうえ受領してください。

町会創立記念式典

- 五月十八日 新長島町会創立三十周年記念式典
町会長 成田 勝美 会場 広田神社会館

新設町会を紹介しす

- 自由ヶ丘町会（町会長 佐々木 秀俊）TEL四二一〇二二六
小柳字唐津橋九七ノ四 世帯数 五十六 組数 二組

四、五、六、七月の主な行事

- 四月 四日 監事会 八日 三役会 理事会
 - 四月 十八日 市民一掃きデー（中部ブロック）
 - 四月 二十六日 定時総会
 - 五月 七日 部長会
 - 五月 十六日 環境衛生部会
 - 五月 十八日 市民一掃きデー（東部ブロック）
 - 五月 二十三日 建設部会
 - 五月 二十六日 交通安全部会
 - 五月 二十七日 総務部会
 - 五月 三十日 市議会傍聴
 - 六月 二日 福祉部会
 - 六月 九日 街路灯補助金交付（第一回）。地区連合会助成金交付
 - 六月 十一日 新任町会長研修会
 - 六月 十六日 除排雪反省会
 - 六月 二十七日 市老連、市町連理事の合同研修会
 - 七月 十日 公民問題対策市民会議総会
 - 七月 十四日 街路灯補助金交付（第二回）
 - 七月 十八日 市民一掃きデー（南部ブロック）
 - 七月 二十一日 部長会
- 。交通事故防止市民総決起大会並びにパレード